

どんびま

2006年6月7日発行

発行所 花の湖農業小学校

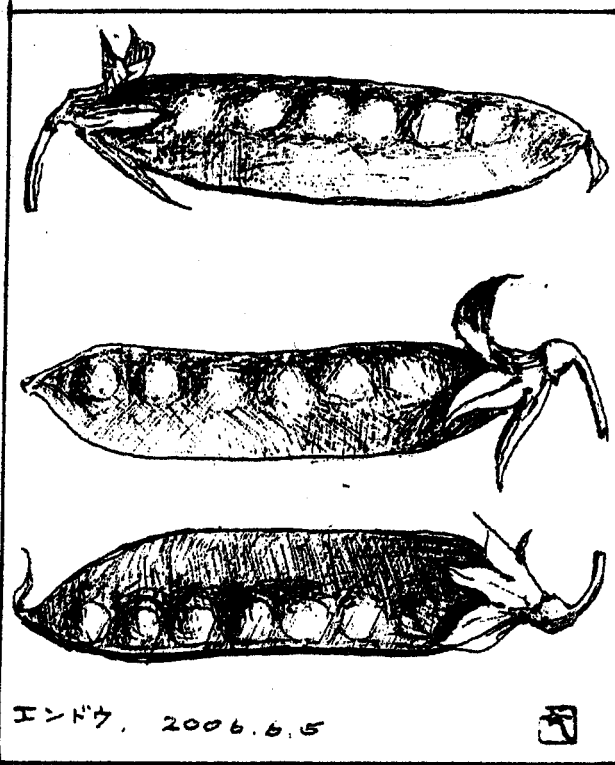
アイヌ

同級生の還暦記念旅行で北海道へ行くことになった。前の旅で買って来た本を開いてみた。

アイヌ文化の伝承保存活動をしているアイヌ女性の「語り」を記録、解説したものだ。

改めて読んでみるとアイヌの人たちの「自然との折り合いのつけ方」に感じ入る事ばかりである。

アイヌとは人間という意味で（人間と云う言葉が民族の呼び名になっている例は世界中に数多くある）これは「カムイの対概念としての人間」という意味を持つと云う。つまりこの世界はアイヌ（人間）とカムイ（神または自然）が対等の存在で、ともに必要としあい、育みあっていると云う考え方なのである。（草）



6月授業日のご案内

- 日程 6月18日（日）
- 受付 9:00～9:30
- 始めの会 9:30～9:40
- 授業 9:40～12:00
- 畑仕事・ほうば寿司・ほうば餅作り
- 昼食 12:00～13:00
- 授業 13:00～
- お茶摘み・お茶もみ
- 紙すき
- 終わりの会 15:00～15:15

●朝8時30分より炭焼き窯の見学が出来ます

餅

●締め切り 6月14日(厳守)

●問い合わせ・緊急連絡 TEL 0573-75-4417 ・090-5110-9362 (山内總太郎)
TEL 0573-75-2109 (花の湖自然公園管理棟) 当日のみ

- 服装 作業のできる服装
- 持ち物 手袋、タオル、長靴、雨具、
買い物袋、箸、食器

<紙すき用>

バット=2 タオル=2～3枚
さらし又は日本手ぬぐい=1枚
ボール・バケツ・新聞紙2日分
計量カップ(型に流すとき使用)
アイロン=グループで1～2台

※牛乳パックは資料の②の水を絞ったものを持参して下さい

- 昼食 ほうば寿司・吸い物・ほうば

～とくちゃんの農小レポート～

たんぼの中はゆるゆるだ～

前日の雨天気に代わり、農小授業日は久しぶりの五月晴れとなりました。

今月はスタッフの富田さんの奥様と息子さんによる、トンボ玉作りの実演がおこなわれ、たいへん好評を得ました。

- * 今月の授業。雨で畑が柔らかいため、予定を変更して田植えを午前に行いました。初めて泥田に入った人は、どんな気分でしたか？
- * 昼食。草もち。ぼたもち。筍とわらびのみそ汁。てんぷら。サラダ。
秋の萩の頃には「おはぎ」牡丹の季節の頃は「ぼたもち」。味のほどはいかがでしたか？
- * 午後の作業。さつまいも。かぼちゃ。落花生。の植付け。
かぼちゃは苗作りの宿題を持参して、それぞれ名札を付けて植付けました。今年は沢山収穫できると良いですね。
- * 宿題。○バケツ稲作。各自持参のバケツに、土と苗を持ち帰ります。
秋にはコンクールが有りますので、稲の作り方を参考にして頑張ってください。
○カブト虫。今年は天候不順がひびき、幼虫の入手が心配でしたが、何とか間に合わず事が出来ました。夏にはカブトムシ相撲が行われますので、良いカ士を育ててください。
- * 持ち帰り。だいこんのすぐり菜。ほうれん草。
大根の抜き菜はとても栄養豊富だそうです。

～とくちゃんのちょっと一言～

父兄の皆さんに、楽しんでもらえる事はないかと考えていたところ、椈の湖オートキャンプ場から、炭焼き窯を提供して頂けることになりました。

私達の活動している炭焼き仲間の「小町好房」で、窯を新調した折にスベアを一台作りまして、これを提供することになり二台揃いました。農小課外授業としてドラム缶窯による、竹炭焼き体験者を募集します。二台を有効に使い出来上がり結果を先に確認しながら、後で詰め込みや点火を体験します。

従って条件としては、農小授業日の前日に参加できる方となります。材料の切り出しから、竹割り、詰め込み。点火してからは8～10時間は火を止められません。この大切な時間が仲間の親睦タイムです。是非ご期待下さい。

宿泊はキャンプ場のハウス又は自然公園の施設を利用して頂きます。

～あぼ兄の百姓ばなし～

カエルの合唱団をつくろう

山間の約20haの水田地帯、その周りに農家が点在する集落に安保兄の家はある。

この地域も後継者不足などで集約農業が必要視され、用排水、農道などの整備のための基盤整備を行なった。今まで、その草刈がたいへんな仕事だったため、新しい田の畦にはシバを植えた。そのシバの中にひととき濃い緑の草、クローバーが点々と生えてきた。

「四葉のクローバー・・・」と親しまれているが、元々、牛の飼料として外国からはいつてきた植物だが、今では畦畔を柔らかくして水漏れの原因となる厄介者になっている。畑の中では、これも家畜の飼料に混じってきたという、青ジソに良く似た繁殖力旺盛な草が蔓延して野菜農家を泣かせている。

6月に入って安保兄の町の4カ所にクマが出て、しかも昼間で、大変な騒ぎになった。一説によると、野生動物の住処、餌場を人間が奪ってしまった一方で、間違った国の政策などで農民が耕作放棄した荒れた田畑に住処にしている物も現れているという。農小の畑の電気牧柵のように、動物たちを追い払っているように見えて、人間が檻の中に入っているように思えてくる。しかも、被害を受けるものはサツマイモ、クリなどと決まっていたが、今の動物たちは栄養学を身に付けたか、ネギまで手をつけるようになった。

かつては、人間と山の動物との見えないルールがあったようだが、今はそのすみ分け地図もシステムも変わった。植物を含めて生態系が変わってしまったのだ。

久しぶりに夜道を歩いた。水をいっぱい張った水田ではカエルの合唱。気をつけて聞いてみると、以前はうるさいほどに鳴いていたカエルの合唱団も、団員不足か、指揮者がいないか鳴き声もばらばらだ。それもそのはず、昨年からの基盤整備でカエルにとっての環境は大きく変わってしまったのだ。用水はパイプ配管で地中に埋まり、排水は三面コンクリートで流れも速く「メダカの学校」を開く場所はない。オタマジャクシの育つ一番の場所の苗代は育苗センターに替わった。カエルの餌となる田にすむ虫たちも農薬でいない。

カエルも大変な時代なのだ。「環境の番人」と言われているカエルだが、今、世界的に数が少なくなっていると報道されている。カエルは地球の環境変化を警告しているのだ。

ところで、カエル博士が近くにいる。その人はある時は農小の父兄、ある時は創作工房かえる座の主宰、又ある時は一人劇団かえる座の主演、自らケロヨン加藤と名乗る加藤弘之君だ。今年3月4月の9週岐阜新聞の「素描」に彼のユニークな随筆が連載された。彼は以前、花火大会のゴミで人形を作り、人形劇団かえる座を作った。もちろん主人公はカエルだ。材料は何もカワズ、ゴミを持ちカエル、ゴミが黄泉ガエル、生まれカエル・・・彼のこだわりと駄洒落は尽きるところがない。

変える、替える、代える、換える、帰る、孵る、蛙。農小の通信も「どんびき」つまりカエルだ。ここまでそろえば「カエルの歌」をつくろう。農小の校歌にもなる。作詞は安保兄、作曲はカエルいやオタマジャクシガ並んでくれるだろう。ケロケロ

「草を刈ろう」

4グループ 加藤弘之

ついに日本一の草刈り名人が亡くなった。その人は93歳。鎌一丁で草を刈るスピードが普通の人の数倍早い。刈った後は除草剤もマッ膏。清々しい程きれいになっている。

夏、ムッとくる陽射しの畑に出て草を刈る。どんなに暑くても休まない。手抜きしない。地べたを這いずりもくもくと刈る。誰にも誉められないけど草を刈る。

その人は足が少し弱く、杖を頼りにしていたが、不思議に草を刈る時には杖は要らなかった。来る日も来る日も草を刈り、そしてこの春に亡くなった。

その人に代わり、新しい草刈り名人が誕生した。

新しい名人は車椅子に乗っているが、草を刈るときは車椅子を降りて地べたを這いずる。農小近くのハーブ畑の草は新しい名人が刈った。誰にも誉められないけど草を刈った。

5月の授業でカモミールを「欲しい人は持ち帰っていい」と言われ、少し花を摘んで帰り、家でお茶にして飲んでみた。口の中がスーとして気分が落着く。さすが！ハーブは薬草の仲間。疲れた身体に良さそうな味だった。体の不自由な人が草を刈る。大変な作業だったろうに。いつも会っているが、やさしい言葉をかけたことがないので、この紙面を借りて新しい草刈り名人に「ありがとう！」と言おう。

そうそう言い忘れていたが、先代の草刈り名人は安保兄のお母さん。(5月22日没)新しい名人は小林銷男さん。

さて、これから夏に向かい農業小学校の草は安保兄の肥料が効きグングン成長する。うまい野菜を育てるために皆で草を刈ろう。幸いボクらは杖も車椅子も要らない。名人に負けないように、そして自分に負けないように草を刈ろう！

※農業小学校の草は、授業の無い日も先生方やスタッフの方が草刈りをしています。

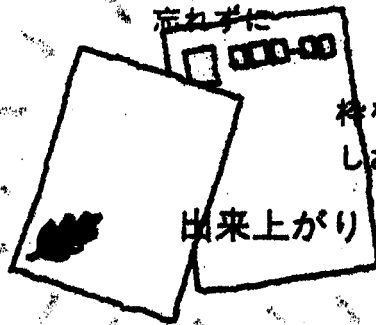
牛乳パックではがきを作ろう



爪を使ってポリエチレンをはがす

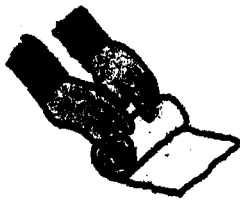


①パックを2昼夜
せっけんを溶い
たお湯に漬ける



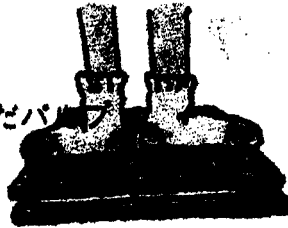
形を変えれば名刺
しおりもできます

⑦さらしにはさんだまま
アイロンをかける



②パルプを水の中で
おろし金にかける

金網をはずし
さらしにはさんだパルプ
を重ね、一昼夜、



ザルにあけ、
固くしぼる。



⑥さらに金網の上から
タオルをかぶせ、水
抜きをする

1パック=50gのパルプ



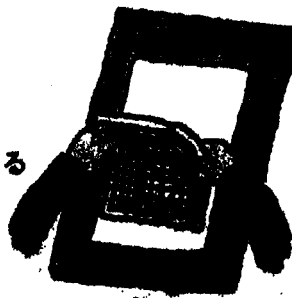
+



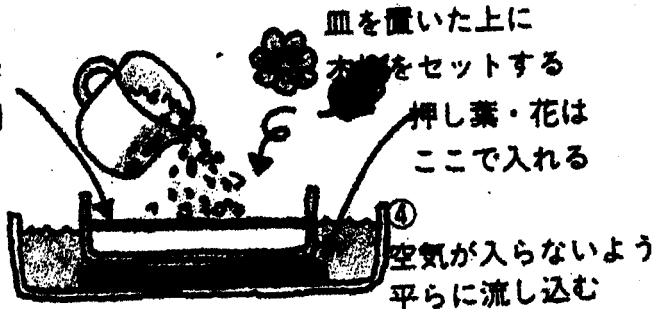
だんご状の
パルプ約10g + 水500cc 30秒~1分間

③はがき1枚分のパルプ溶液を作る

さらしの上へのせる

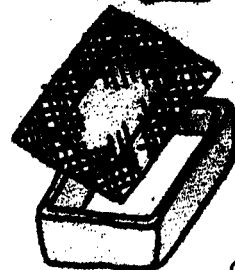


木枠
金網



皿を置いた上に
木枠をセットする
押し葉・花は
ここで入れる

④空気が入らないよう
平らに流し込む



⑤金網ごと
はずす